長崎市立図書館　夏のドキュメンタリー上映会

平成 21 年度　文化庁映画賞　日本カトリック映画賞　受賞

伊勢真一演出作品　―風のかたち 小児がんと仲間たちの 10 年―

病気を体験した子どもたちが、弱さを強さに変えて行く姿。
医師やボランティアたちが、病気の子どもとかかわることで、力を得ていく姿。
10 年の歳月が、命の尊さ、生きる意味をやわらかに問いかける。
「風のかたち」はどんなかたち？

7/19 土

長崎市立図書館 多目的ホール

13:00～16:30 （開場 12:30）

入場無料

定員 100 名

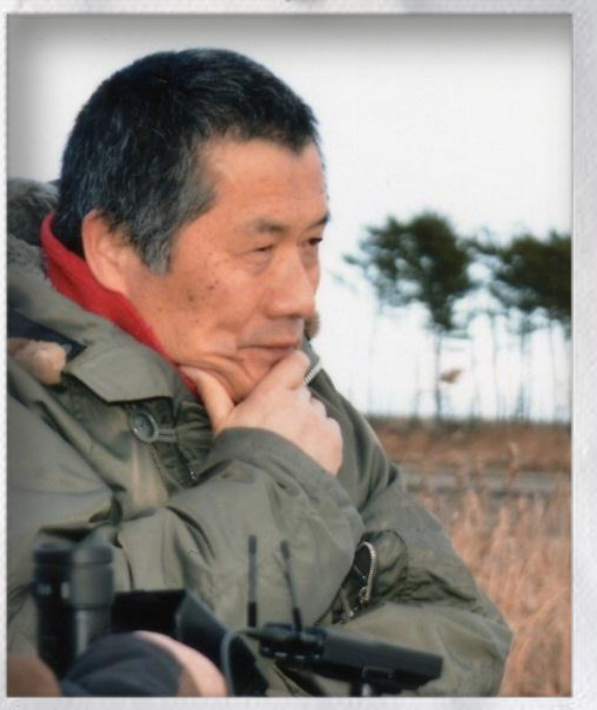
申込：図書館カウンター 電話 FAX はがき

〒850-0032　長崎市興善町 1－1　「風のかたち」係　電話（095）829-4946　FAX（095）829-4948

※FAX、はがきで申込みをされる方は、住所・氏名・電話番号を明記してください。

主催/公益財団法人がんの子どもを守る会九州西支部　長崎県福祉保健部医療政策課　長崎市立図書館　共催/小児がん関連記録映画製作委員会

「風のかたち」紹介



伊勢（いせ） 真一（しんいち） （監督・映像作家）

1949 年東京生まれ。立教大学法学部卒。大学卒業後、いくつかの職業を経験した後、映像の世界に入る。父は記録映画編集者として活躍した故・伊勢長之助。ドキュメンタリー映像作家として長年に渡り、精力的な活動を展開。テレビから映画まで、ヒューマンドキュメンタリーを中心にさまざまな人の日常を、温かい眼差しでほのぼのと映し出す作風で知られる。

1995 年、重度の障害をもつ少女の 12 年間を追った作品『奈緒ちゃん』で毎日映画コンクール記録映画賞を受賞。その後も、『ルーペ』(97)、『えんとこ』(99)、『ぴぐれっと』(02)、『朋あり。太鼓奏者 林英哲』(04)、『ありがとう』(06)、『ゆめみたか』(08)、『白い花はなぜ白い–哲ちゃん・映像作家–』(08) などを発表。幅広くヒューマンドキュメンタリーを手がける。

再生 伊勢真一監督からのメッセージ

10 年前の夏、私は小児がんと闘う仲間達の一群と三浦海岸で出逢いました。細谷亮太医師（小児科・聖路加国際病院副院長）をリーダーとする、SMS サマーキャンプに撮影スタッフと共に参加したからです。そこには、病気を克服し、社会の小児がんに対する偏見や差別を跳ね返そうともがく子ども達がいました。

小児がんはもう、不治の病ではありません。現在、全国におよそ 2 万 5 千人いると言われる小児がん患者の 10 人のうち、8 人までもが治っているのです。確かに、一時代前まで、死に至る病として恐れられていたのですが、医学の進歩は、20 世紀後半から、小児がんを“治る病気”に変えたのです。恥ずかしいことに、私がそうした事実を知ったのも、キャンプに参加してからです。以来 10 年、「命を救ってもらったお返しのつもりで私は、困っている人や弱い人を助ける仕事をしたい・・・」と夢を語っていた少女は看護師になり、「子どもが欲しい・・・」と切実に吐露していた骨髄移植体験者が無事、母親になる姿を記録することが出来ました。

「学校の先生になり、小児がんや難病のことを子どもたちに知って欲しい・・・」という願いを胸に他界してしまった仲間もいます。

カメラは子どもたちだけでなく、医療の現場で、ずっと子ども達を見守り続けてきた細谷亮太医師の 10 年間をも記録しました。「子どもは死んじゃいけない人たちだからね」カメラに語りかけたこの言葉こそが、この 10 年の記録、この映画の立ち位置です。

10 年間の歳月が語りかける、小児がんと闘う仲間達の生きる力・・・それは不断に蘇る命そのものの力ではないでしょうか。時間をかけて、ひとりひとりの命を見続けることで見えてきた「再生」という希望が描かれます。小児がん患者や体験者を、悲劇の主人公ではなく、「再生」のシンボルとして描いたこの物語は、ただ難病を扱ったドキュメンタリーという枠にとどまらず、命の尊さ、生きる意味を問いかけ、心が病んだ時代としばしば言われる私達の社会に、希望をメッセージするに違いありません。

風のかたち

【監修】
細谷亮太 月本一郎 石本浩市

【協力】
聖路加国際病院
東邦大学医学部付属大森病院
あけぼの小児クリニック
毎日新聞社
財団法人がんの子どもを守る会

【協力】
本橋由紀 渡辺輝子 中島晶子
近藤博子 樋口明子 稲塚彩子
キャンプに参加した子どもたち
ボランティア

【撮影】
石倉隆二 内藤雅行 田辺司
世良隆浩 東志津

【照明】 箕輪栄一
【音楽】 横内丙午
【歌】 苫米地サトロ

【録音】 米山靖 渡辺丈彦
井上久美子
【助監督】 助川満
【絵】 伊勢英子
【題字】 細谷亮太
【製作】 いせ FILM
【演出】 伊勢真一

上映会開催にあたって

子どもにもがんがあります

公益財団法人がんの子どもを守る会　九州西支部

子どもにおこる悪性腫瘍（がんや肉腫）を総称して「小児がん」といいます。小児がんの治療は外科的治療、放射線治療に化学療法を加えた集学的治療によって目覚ましい進歩を遂げ、現在病気によっては約 7～8 割の子どもたちが長期にわたり生存できるようになりました。現在治療中の患児や治療を終了した小児がん経験者、そしてその家族にとっては、学校のこと、きょうだいのこと、さらに成長に応じて進学や就職、結婚、出産など医療面だけではなく生活全般において長期にわたり不安や困難を抱えることがあります。また、治療を経てお子さんを亡くした家族に対するサポートが必要なこともあります。

公益財団法人がんの子どもを守る会は、1968 年に小児がんで子どもを亡くした親たちによって設立されました。本会では小児がんの患児や家族が直面している悩みが軽減できるようさまざまな活動を行っています。今回、地域の皆様に小児がんに対する正しい知識をもっていただき、社会全体で支えることができることを願って本企画を思い立ちました。ご参加を心よりお待ちしています。

小児がんの理解促進を目指して　長崎県福祉保健部医療政策課

この世に生を受けたこどもたちの多くは、家庭のなかで育まれ、徐々に社会と繋がりながら成長していきます。しかし、小児がんのお子さんは、がんという病のために家族との交わる時間を、治療という時間にとられてしまいます。

長崎県では、毎年約 20 人のお子さんが小児がんに罹っています。小児がんのがん治療は、長崎大学病院を中心に行われています。多くの離島を抱える本県では、治療のために家族がばらばらに暮らし、兄弟姉妹とも離れ、教育の機会も、時には院内学級という形で行われている場合もあります。長崎県は、患者さんとそのご家族の方々の声に耳を傾けながら、よりよいがん医療と教育環境の提供に努めていきたいと考えています。また、希少ゆえに小児がん患者に対する理解が進まないことも課題であると考え、このような講演会を応援しています。

ひとりのがんに 地域の力を　長崎市立図書館

長崎市立図書館では、地域の情報発信拠点として、2011 年よりがん情報の提供（がん情報コーナーの設置や講演会の開催）に力を注いでいます。その背景には、長崎県民のがんによる死亡率が全国に比べて高いこと、図書館に「がんについて調べたい」という相談がとても多く寄せられた経緯があります。今回は、国のがん対策のひとつである「小児がん」に焦点をあて、小児がんの正しい知識や現状を市民のみなさんに広くお伝えしたいとの想いから企画に携わっています。一人でも多くの方に、上映会を通し「自分にできること」を考えていただくきっかけになればと願っています。

同時開催！

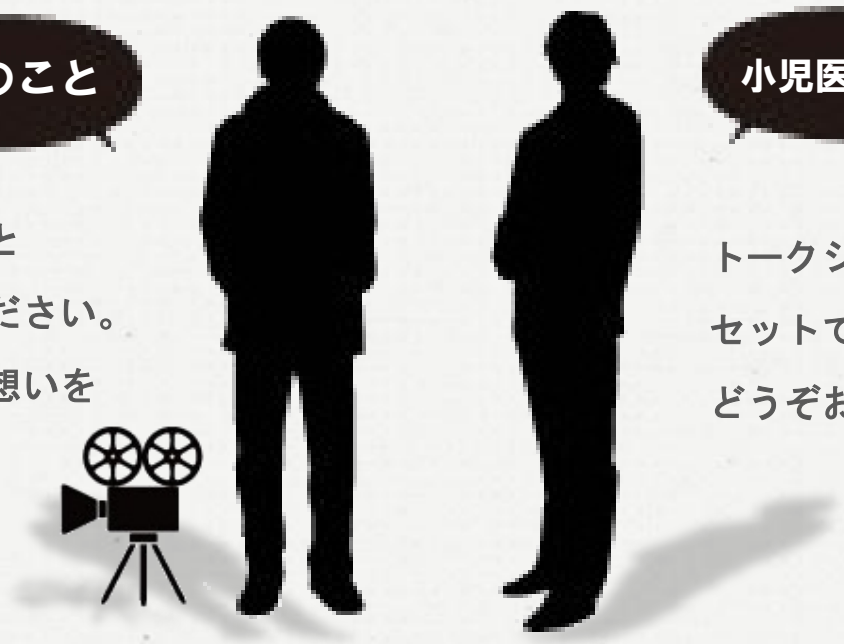
伊勢（いせ） 真一（しんいち） × 細谷（ほそや） 亮太（りょうた）

（監督・映像作家）　　（小児科医）

スペシャルトークショー！

映画のこと

映画上映会のあとは、伊勢真一監督と
細谷亮太先生のトークをお楽しみください。
映画のこと、小児医療のこと、その想いを
熱く語っていただきます！
トークショー終了後には**サイン会**を
開催します。乞うご期待！



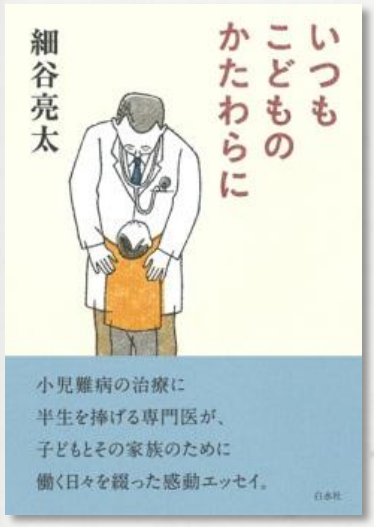
小児医療のこと

トークショーは映画上映会と
セットでお申込みいただけます。
どうぞお楽しみに！

細谷亮太講演会 「いつも こどもの かたわらに」

細谷（ほそや） 亮太（りょうた）
（聖路加国際病院　小児総合医療センター長）

小児難病の治療に半生を捧げる聖路加国際病院　小児総合医療センター長・細谷亮太さんに、こどもを看取る悲しみ、映画作り、四国八十八ケ所巡礼の結願、レスパイト、俳句など、滲み出る数々の思いをお話いただきます。どうぞこの機会にご参加ください。親子での参加も大歓迎です！



〈講師紹介〉
1948 年山形県生まれ。小児がんの子どもたちの治療に携わると同時に、子どもたちとのキャンプ活動や執筆活動にも取り組む。主な著作は『いつもいいことさがし』（暮らしの手帖社）『生きるために一句』（講談社）『生きようよ』（岩崎書店）など。句集に『桜桃』『二日』がある。

長崎市立図書館 多目的ホール

10:30～11:30　（開場 10:00）

入場無料

定員 100 名

申込：図書館カウンター 電話 FAX はがき

〒850-0032　長崎市興善町 1－1　「細谷亮太講演会」係　電話（095）829-4946　FAX（095）829-4948
※FAX、はがきで申込みをされる方は、住所・氏名・電話番号を明記してください。